

第17号
平成22年3月

もう一つの道

情報は、うのみにせず、注意深く
徐々に試してください。

山田整骨院
熊本市出水4-25-1
096-364-7611
<http://yamadasu.com/>
E-mail:yamadasu@opal.ocn.ne.jp

大丈夫、血液サラサラでも出血は止まります

出血し易く、止血しにくい悩み

当院の患者さんで、以前腹部の動脈梗塞となり、その後心筋梗塞となり命の危険にさらされた患者さんがいます。又、当院で治療中に右半身の不随が発現し、脳梗塞が分かった患者さんがいます。今はお二人とも日常生活に支障はありませんが、再び梗塞を起こさないよう血液をサラサラにする薬を服用しています。現在、お二人に共通する悩みが、出血し易く、出血すると血が止まりにくいことです。

動脈硬化とはどういうこと？

動脈はもともと弾力のある管ですが、老化するにしたがって古いゴム管のように弾力性が減少してきます。そこで弱くなった血管の壁の補強工作をして、壁は厚くなり、一層硬くなります。又、内腔が狭くなります。血管が細くなって血液を流そうとすると血圧は上昇します。高血圧で血管壁にいつも高い圧力がかかると血管内皮が傷つきます。そして出血ということになります。

血栓て何ですか

よく血栓という言葉が出てきます。血管内の血の塊りで脳梗塞や心筋梗塞を起こす原因の一つとされています。今回、止血、つまり出血を止める血液凝固作用を調べて、本来の血栓の意味が分かりました。

止血、つまり血液凝固作用のメカニズム

1. 血小板……赤血球、白血球と同じく血球です。血管が破れて出血すると、血小板が集まり、破損した血管内皮に粘着して、洪水のときの破壊された土手を補修する土のように積み重なって、破れた血管を覆って穴を塞ぐ栓の働きをします。これが血栓です。だから本来は良い働きの意味なのです。

2. 血液凝固因子……血液の中にあるタンパク質の一種です。出血があると反応し、最終的にはフィブリンというタンパク質に変身します。糊のようなもので、血小板でできた血栓にベタベタとはりつき、あたかもセメントで土嚢を固めるようにして血栓をガッチリしたものにします。

線溶ということば

非常に専門的な言葉ですが、大変重要なので解説してみたいと思います。フィブリン、日本語で繊維素は、止血の働きをする凝血塊ですが、止血後破れた血管は自然に修復されます。そうすると凝血塊はお役ご免です。むしろいつまでもあつては障害がでてしまいかねません。それで繊維素を溶かす物質が出て、もとの血液の流れに戻るといふしくみです。これが線溶です。

血液の流れと凝固作用を制御する困難さ

動脈硬化が生じ、それによって血管内皮が損傷して出血し、それを血小板や凝固因子が働いて止血し組織が修復され、線溶が行われて元に戻るのですが、治療と予防のために患者さんは投薬を受けます。線溶を亢進するための、つまり血液をサラサラにする薬は当然、血液凝固作用を低下させます。

ビタミンCが血液をサラサラにして、かつ、す早く止血させることができる

簡単に言うと血液、血管、筋、骨、皮膜、歯、髪、等人体の全てはコラーゲンというたん白線維が成分となっています。コラーゲンを生成するにはビタミンCが必須です。ビタミンCがなければコラーゲンになれず、そうすると人体の全ての部分は不完全となります。その代表的な病気が壊血病です。組織が緩み、出血し、衰弱します。

壊血病を治す物質として、ビタミンCが発見されました。ビタミンCが十分供給されると体の組織も体液も完全になります。つまり血液も血管も正常となり、血液の流れも、止血も正常となるということです。

あとがき

西式健康法ではビタミンCの摂取を強力に勧めてきましたが、今回原稿を書くため勉強し直して、その意味が良く理解できました。西式では天然のビタミンCを豊富にとるため、生野菜青汁と柿茶を考案しました。